

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度第1回さがみはら地域づくり大学運営委員会				
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)				
開催日時		令和4年12月1日(木) 午前10時~11時30分				
開催場所		WEB開催(相模原市役所 第1別館1階 第2会議室)				
出席者	委員	5名(別紙のとおり)				
	その他	2名(指定管理者)				
	事務局	4名(市民協働推進課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>議 題</p> <p>1 令和4年度の運営状況について(報告)</p> <p>2 令和5年度の講座内容等について</p> <p>3 その他</p>				

主な内容は次のとおり。

議 題

1 令和4年度の運営状況について（報告）

指定管理者及び事務局より資料に基づき説明と報告を行った。

【主な意見等】

(指定管理者)

- ・講座運営・内容やパンフレットなどこれまでの委員意見を反映し大きく見直した。
- ・中邨委員長からの意見で、デジタル関係の講座を設定し、情報関係の講座は満員となった。
- ・齊藤委員からの意見で、若い方を取り込むため、学生も受けやすいように短縮版コースを設定した。パンフレットの中身を変更したことが、学生の参加に寄与している。（高校生2名、大学生5名）
- ・受講者同士の交流のため、7月にオリエンテーションを開催し自己紹介を行った。
- ・今年で8期目だがコーディネーターズサークル(以下CS)がまだ活用できていないところがある。今年は講師として登壇する機会などを設定した。受講生が団体の活動に参加するきっかけにもなったので、今後も続けていきたい。
- ・見学講座を設定し、大人の遠足のようにこれを機会に受講生同士が仲良くなった。
- ・まちづくりフェスタでの参加が非常に良かった。年代を混ぜての班分けでの制作物を展示した。中には折り紙教室としてブース参加した班もある。
- ・西門商店会の活性化に動き出すなど、受講生の主体的な活動につながった。
- ・施設の事業として地域づくり大学単体ではなく、他の事業との連携も必要である。
- ・Facebookのグループ以外にも、修了生がオープンチャットも活用し始めた。
- ・コース受講の8名が専門講座を追加受講するなどリピーターが多くなってきた。
- ・来年度もリピーターや、知人からの紹介を増やしていきたい。

(竹田委員)

- ・人数が増えて来て良い。今回の報告は良かったと思う。
- ・市長講演について、市の歴史の講座が人気なので、市の現状を市長から語ってもらうのが良いのではないか。
- ・市のことを知って、次に市が今後どうなるかを市民は知りたいのではないか。
- ・過去の修了式に参加したが、修了生皆のレベルが高い。

(齊藤委員)

- ・大きな改善がされて、新規プロジェクトがスタートしていて喜ばしい。
- ・他市でも地域の活動に若年層をどう取り込むかが課題になっている。

- ・相模原市は大学が多く、さがまちコンソーシアムがあるため、高校生・大学生をどう取り込んでいくのか検討し、戦略的にアピールすることが大事である。
- ・講座開催日を主に土曜日にしたのは良い。大学生にも紹介したい。
- ・CSの企画講座は“ものづくり”でもよいのではないか。自分たちがやりたいことが成果になるのは良い。
- ・例えば1日だけ大学とコラボして講座配信すると発信力があるのではないか。
- ・発信しないと良い内容であっても知ってもらえない。大学の授業に来て宣伝してもらえると学生にも知ってもらえる。
- ・地域活動に近い取組をしている大学教員にも宣伝してもらえると良い。
- ・高校生は入試に向けて、夏休み中にできる地域活動を探している。近隣の高校にもこういう講座があると宣伝すると良い。
- ・学生はFacebookをあまり見ない世代であり、地域づくり大学の受講者層の情報源と異なっている。
- ・企業でSDGsに力を入れているところもある。今後の地域づくり大学には中高年の社会人が空いている時間に参加する例も出てくるのではないか。近隣の企業にも周知すると良い。高校生や大学生が企業の人に会えるとPRになる。

(中邨委員長)

- ・中身についても、相当改善されており、今までよりも認知度、活動の範囲が広がったと思う。
- ・地域づくり大学キャンパスの利用できる対象者が少ないとはどういったことか。修了生は利用できないのか。

(事務局) 受講生と修了生に限定しているため、講座がある日以外は使われていないこともある。現時点では修了生はまだあまり利用していないので、対象者を広げたりして利用者を増やしていきたい。

(指定管理者) 地域づくり大学キャンパスはまだ始めたばかりで浸透していないが、最近は利用頻度が上がっている。例えばまちづくりフェスタの展示物は、キャンパスの場所を用いて作成した。

議 題

2 令和5年度の講座内容等について

令和5年度の講座内容案について報告及び検討を行った。

【主な意見等】

(指定管理者)

今年度がまだ開催中のため、全ての講座の状況を見てから、今年度の実績を基に

して来年度の講座の編成を考える予定だが、大きな枠は変更せずに行いたい。オリエンテーションなど改善できるところは、今回の委員の意見を反映していきたい。

専門講座は今年度の受講生からも来年もぜひ受講したいというリクエストがかなりあるため、全く同じ講座では今年度の受講生が参加する機会を損失してしまうと思うので、いくつかは替えていきたいと考えている。

また、同じ講座でも、講師が変わることからかなり内容が変化することから講師も少し替えていきたいと考えている。

(齊藤委員)

今後、リピーターへの積極的な広報により定員を満たすのではと思われる。地域での活動の機会を探している大学や高校へアプローチすると、参加してくれるのではと感じる。

内容が良ければ自信を持って勧められる。以前の地域づくり大学は、受講期間も長かったので自身の教える大学生にも積極的に紹介できないと感じることもあったが、今回は学生に受講を勧めたいと思う。他大学でも同じように感じると思う。

修了生の方々もとても重要な存在だが、人数が増えてくると管理が難しくなる可能性もある。自主運営して欲しいと思っても、管理に時間がかかる状況が実際に出てくるのではないか。修了生ばかりに力を注ぐ構造が生まれないように、受講生が自主運営できるような形にしていくと良い。また、CSを活動内容でチームごとに分けて運営することになると、活動に温度差が生じる。各期の方々が仲良く自主運営していけるとよい。

(竹田委員)

今年の運営は非常に良かったので、また来年もうまくやっていければと思う。自治会回覧版への掲載など自治会連合会でもできることは協力するので、ぜひお声がけいただきたい。

(水澤副委員長)

現在、市民活動団体は非常に高齢化が進んでいて、後継者もほとんど生まれにくいという状況であり、活動が停滞して解散する団体が多い。そういった中で、地域づくり大学の卒業生たちが地域の課題に取り組み、団体を立ち上げたり、既存の団体のメンバーと知り合うことで活動に入っていけるとよいと考えている。引き続き、施設の事業担当とも意見交換できるとよい。

(川村委員)

今後も引き続き、高校生、大学生など幅広い年齢層の市民の受講に繋げてほしい。これを第一歩として間口を広げるような方向に進んでいければと思う。

(指定管理者)

今回、高校生2名の受講があったが、今までと異なるのはパンフレットを若年層向けに作成したことである。これがまた来期に繋がるかはまだ不安なところがある

ので、引き続き高校生の参加に繋がるアドバイスもいただきたい。また、今回学生の受講生からは、受講料を学生用の料金体系にしてもらえないかという声があった。やはり、こちらとしても高校生に費用のかかる講座の追加受講は勧めづらいところがある。大学生はまだしも、高校生の学割などの検討もしていきたい。

また、CSについても、とても大きな課題として捉えている。できる範囲で目を向けてはいるが、その先に何か活動できることや情報がないと、どうしても先に進まない。市とも連携して、修了生に対して定期的にこちらから情報を投げかけていけるような体制づくりができるとういと考えている。

(中邨委員長)

受講料については、運営委員会では決定できないので、事務局でも検討してはどうか。確かに高校生が7,500円を払うのは少し厳しいと思われる。ただ、一方で高齢者もどうなのかとの話になるので、内部で検討いただきたい。

議 題

3 その他

次回は2月を目途に第2回運営委員会を開催予定である旨説明した。

閉 会

以 上

さがみはら地域づくり大学運営委員会委員名簿

(令和4年12月1日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	中邨 章	日本協働政策学会 名誉理事長 (地域づくり大学の学長)	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)		出席
3	水澤 弘子	特定非営利活動法人さがみはら市民会議 理事 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)	副委員長	出席
4	齊藤 ゆか	神奈川大学 教授 (講座の各分野における関係者)		出席
5	川村 彰	市民局長 (市職員)		出席